

道徳学習指導案

指導者名 石川 智大

- 1 学年 第1学年 5組
- 2 主題名 社会のきまりを遵守する大切さ
C- (10) 「公德心」
- 3 ねらい 主人公の経験を通して、きまりを守る必要性について考え、社会のきまりを大切に
し、よりよい社会生活をめざそうとする道徳的心情を養う。
- 4 教材名 「傘の下」
(出典：『中学生の道徳 1年 かけがえのないきみだから』 学研)

5 主題設定の理由

○ 我々が生きている社会には、様々なきまりがある。きまりは、人間の知恵が生み出したものであり、社会に秩序を与えている。きまりがあることで、個の利害関係から生じる摩擦を最小限に食い止めることができ、さらにそれを守ることで個人の自由が保障される。もちろん、きまりなどない無法状態になれば、自由など保障されることはない。お互いがきまりを守ることで社会の安定が保たれている。

きまりを守る「遵法精神」は、公德心によって支えられている。公德とは、社会生活の中で守るべき道徳である。たとえば、最低限の規範意識として「ルールを守る」ということがある。法律など、これが守られなければ社会生活が保障されない。その規範意識からさらに一歩高まった心の状態が「マナーを守る」といった当たり前の規範意識が備わった公德心である。しかし、公德心をもつことは容易なことではなく、自分にとって不利であったり他人のことを考えるのが面倒だったりすると実行できないことがある。きまりについての正しい理解のもと、みんなのものや公共のものを大切にし、自分の都合だけを考えるのではなく、周りに目を配り、お互いの存在を意識しながら行動しようとする態度に気付かせたい。

中学校に入るまでの発達段階では、きまりの意義や権利を大切にし、義務を果たすことの意義について理解している。入学してまもない時期は、きまりに従えばそれでよいと考え、「ルールだから守る」と他律的に捉えがちである。様々な体験をしていく中で、きまりについての理解が深まっていく一方で、きまりは自分たちを拘束するものとして捉え、反発することもある。また、自分の権利は強く主張するものの、自分の果たさなければならない義務を果たさないままにしている傾向もみられる。法やきまりの他律的な捉え方を超え、「大切にしたいからきまりを守る」という自律的な捉え方になることにより、これからの生き方がよりよいものになっていくと考える。

○ <個人情報保護のため省略>

○ 本教材は、「ぼく」が中学1年生のとき体験した出来事について回想する話である。病院で診察を終え、帰るとき、雨が降ってきた。母の忠告があったにもかかわらず傘を持たずに病院に来たことを後悔する「ぼく」は、入口近くにある傘立てを目にする。そこにあるたくさんの傘を見て「きつと置き忘れの傘だからいいだろう」と、自分に都合のいいように解釈し、1本の紺色の傘を手にして帰る。良心の呵責から周囲の目が気になっているそばで、すれ違った若い女性が濡れながら駆けていく姿を見かける。気になりつつもその傘を利用し家路に着いた。数日後、その傘をそっと返したあと、あの時の若い女性が返した傘を手にして帰る。「ぼく」が手にしたあの紺色の傘の持ち主が若い女性であったことがわかり、あの時の「ぼく」のとった行動について深く考え、複雑な気持ちになりながら女性を見送るという話である。

「きまりを守ることは大切である」ということは、誰でもわかっている。しかし、いざ自分に困ったことが起こると、つい自分の利益を優先してしまいがちである。きまりを守らないことへの罪悪感や不安はあっても「これくらいいいだろう」、「ばれなければいい」といった心の弱い部分は誰にもある。このような気持ちは資料の中の「ぼく」への共感につながる。「きまりを破ることで自分の良心を裏切ることになっている」ことや、「きまりを守ることが、相手の気持ちに立って考えている」ことになり、人間関係を構築していく上でよりよい状態になっていることに気付かせたい。

6 学習指導過程

	学習活動	発問□ 及び予想される反応（・）	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の導入。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 授業前に教科書を忘れたことに気づき、隣のクラスに行くと移動教室で誰もいない。でも、机の上に教科書が置いてあった。みんなならどうしますか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・借りる ・だまって借りる ・あとで謝る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の教材を通して考えることを伝える。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <主題追求課題> 「ぼく」の経験を通して、住みよい社会にするためにどうしたらよいか考えよう </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読む。 ・全体で交流する。 ・全体で交流する。 ・3人グループで意 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 傘立てに近づいて、紺色の傘を手にしたとき、「ぼく」は、どんなことを考えただろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ばれなきゃいいや。 ・濡れずにすむ。 ・見つかったらマズイ。 ・本当にこれでいいの。 ・罪悪感、自責の念。 ・人のものを盗ったことへの後ろめたさ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> あの紺色の傘が女性のものだ気付いた「ぼく」は、どんなことを考えたのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・あんなことをするんじゃない。 ・女性はなんで「ぼく」のことを怒らないんだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 住みよい社会にするために大切なことって </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・理解を深めるために気になったところを個人でもう一度読み直させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 補助発問として </div> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の声が気になっていたのはなぜだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 補助発問として </div> <ul style="list-style-type: none"> ・若い女性は、どう思っていたのだろうか。 ・どうしてそう思

展開	見交流する。その後、全体交流を行う。	<p>なんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りに迷惑になることはしない。 ・自分勝手なことはしない。 ・気遣う、思いやる。 ・やっではいけないことはそもそもしない。 → 守らないと、自分の心がだめになる。 うそをつく。 	<p>う？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなならどうですか？ ・本当にできる？ <p>・そもそもこんなことはしてはいけないという考えが、住みよい社会になることへつながっていることに気付かせたい。</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを記入する。 ・教師の説話を聞く。 	今日の授業を通して自分の考えを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価資料として活用し、授業改善に生かす。 ・子供たちの感じ方を少しでも広げる教師の説話を聞く。

7 評価

友達の考えやこれまでの自分の生き方からきまりを守る意義について考え、全体交流を通して住みよい社会にしていくためにどのようなことが大切なのか、自分のこととして深く考えることができたか。


8 板書計画

11/17 主題 追課題 **僕の経験を通して、住みよい社会にしたいためにどうしたらよいか考えよう** 傘の下 友達の教科書


- ・だまって借りる
- ・ふせんを貼って借りる
- ・あとで謝る。

〇〇したときのぼくの気持ち

生徒の反応を書く。




女性は、どんな気持ち？
・友達だし
・気がおれずすみなら、



・傘もってれば、、、
・雨やだな。

数日後



・あんなことをするんじゃないかと思った。
・女性なんでも、僕のことなんて知らないうら、女性に謝りたい。


僕は、どうしたらよかった？
 母に迎えに来てもらう。
 そもそもこんなことしなけりゃいい。

住みよい社会にするために大切なこととは？

- ・やっで駄目なことはしない。
- ・自分だけ、いにならないように。
- ・周りに迷惑になることはしない。
- ・自分にウソをつかない。
- ・やっではいけないことはそもそもしない。
- ・気遣う、思いやる。
- ・自分勝手なことはしない。

わかってなぜ？

9 教材分析

主題名	社会のきまりを遵守する大切さ		教材名	「傘の下」	
ねらい	主人公の経験を通して、きまりを守る必要性について考え、社会のきまりを大切にし、よりよい社会生活をめざそうとする道徳的心情を養う。				
主要場面	「ぼく」の心の動き	道徳的 価値等	気付かせたいこと	主な発問	
雨が降ってきた。止みそうにない。	<ul style="list-style-type: none"> 傘を持たずに出てきてしまった。お母さんの言うことを聞いておけばよかった。 テストが近いので今日は早く帰って勉強しなければ。 	反故にする 利己的	<ul style="list-style-type: none"> 母の言うことを守らなかったことへの後悔。 自己中心的な考えに陥っている。 		
入口のそばの傘立てに置きっぱなしの傘がたくさん置いてあるのを目にする。	<ul style="list-style-type: none"> そういえば、この間もたくさんの傘が置きっぱなしにしてあったな。 一つくらい借りてもばれないだろう。 傘の持ち主あるいはだれかに言ったらどうしよう。 	利己的 良心の呵責	<ul style="list-style-type: none"> 置き傘を見て、動揺している。 勝手に借りて帰ろうか、という誘惑にかられる。 		
自分の傘を探すふりをして傘立てに近づいて紺色の傘を手にする。	<ul style="list-style-type: none"> 一つくらいとっても大丈夫か。 紺色の傘なら目立たないだろう。 	利己的	<ul style="list-style-type: none"> きまりは破っているものの、これくらいいいかという気持ちになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 傘立てに近づいて、紺色の傘を手にしたとき、「ぼく」は、どんなことを考えただろうか。 	
<ul style="list-style-type: none"> 「お疲れさま。」と、弾んだ若い女性の声が聞こえてきた。 若い女性が濡れながら駆けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 声が聞こえてドキッとする。 傘を盗ったことがばれないか心配 女性の姿が頭からいつまでも離れない。 				
<ul style="list-style-type: none"> あれから5日後に傘を返しに行く。 病院の玄関に入って真っ先にあの目立たない紺色の傘を元の場所に返した。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の日に傘を返しに行こうと思っていたが、返しそびれた。 傘を返してホッとしている。 	隠ぺい 罪悪感 安堵 悪気はない 責任感	<ul style="list-style-type: none"> 傘を勝手に使ったことへの罪意識があったが、ここで消えた。 		
<ul style="list-style-type: none"> 治療を終えて、帰るとき、あの若い女性が紺色の傘を手にする。 	<ul style="list-style-type: none"> え?! なんで?? 僕が勝手に使って帰ったことがばれている。 なぜ、この女性は何も言わないんだ? 	動揺 恥ずかしさ 罪意識			<ul style="list-style-type: none"> あの紺色の傘が女性のものだと気付いた私は、どんなことを考えたのだろうか。
<ul style="list-style-type: none"> 濡れながら駆けて行ったあの人の姿が、通りの向こうで重なっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 申し訳ないことをした。 	後悔			
<ul style="list-style-type: none"> 今となっては苦しい思い出となっていて、雨が降る季節になるといつも思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分も社会をつくっている一人。お互いに気を付けていくことでみんなが暮らしやすい社会になっていくから大切にしよう。 	社会連帯 公德心			

